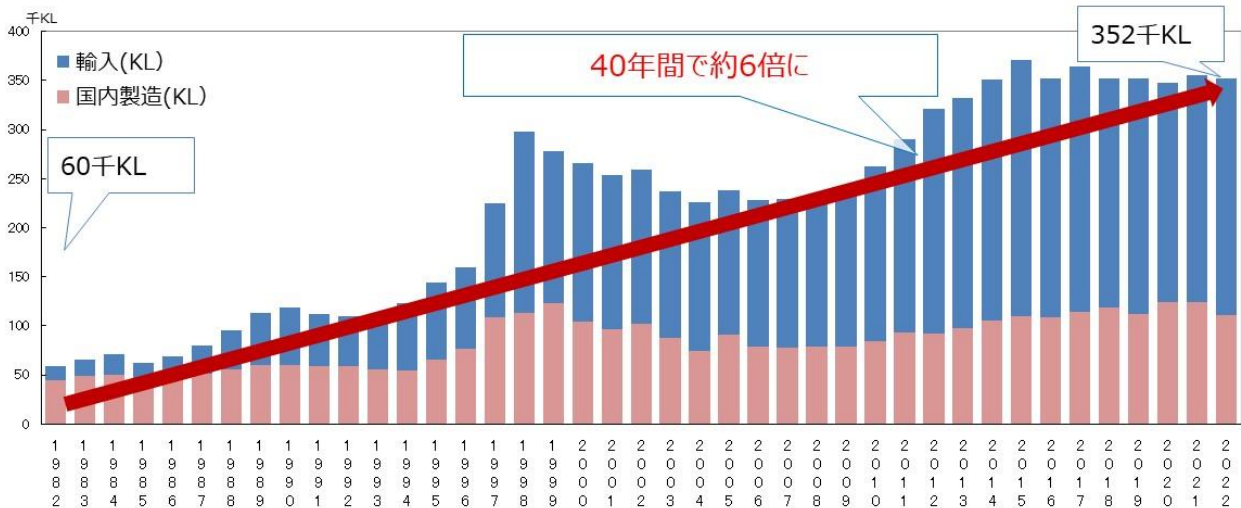


## 日本国内のワイン消費数量は10年間で約1.1倍に拡大 ～国内のワイナリー数は前年増、日本ワインの成長に期待～

### ■消費数量<sup>※1</sup>は40年間で約6倍に。ワインが日常に定着

- ✓ 2022年のワイン消費数量は対前年99%となりました。10年前の2012年と比較すると、約110%と市場が拡大しました。
- ✓ 赤ワイン人気により、大きな消費を生んだ第6次ワインブーム（1997～98年）やチリを中心とした「新世界ワイン」および日本産ブドウ100%で造る「日本ワイン」への人気が高まった2012年からの第7次ワインブームなどを経て、日本国内のワイン消費数量は40年で約6倍となり、着実に伸長しています。



※国税庁発表資料を元に、国内製造・輸入別構成比はメルシャン推計。会計年度（当年4月～翌年3月）

### ■スティルワインの輸入数量<sup>※2</sup>はチリワインが3年ぶり第1位に。欧州産ワインの構成比は約60%

- ✓ 2023年は、原料価格の高騰や酒税改定などの影響を受け、市場の価格が上昇。お客様の消費マインドにも影響し、スティルワインの輸入数量は前年比約90%と全体的に減少しました。
- ✓ 2023年は、フランスを抜きチリが国別輸入数量1位となりました。
- ✓ 構成比は輸入数量1位のチリワインが約30%を占め、2位のフランス、3位のイタリア、4位のスペインなどを含めた欧州産ワイントータルでは約60%を占めています。

### ■スパークリングワインの輸入数量<sup>※3</sup>はフランスワインが第1位に。市場は10年間で約130%と拡大

- ✓ 2023年のスパークリングワインの輸入数量は前年比約90%と全体的に減少しました。
- ✓ 日本でも人気がある「シャンパン」の生産国でもあるフランスが全体の約40%を占め、国別輸入数量1位となりました。
- ✓ スパークリングワインの輸入数量は10年前の2013年と比較すると、約130%と拡大しています。

### ■日本産ブドウ100%で造る「日本ワイン」のワイナリー数は前年比103%と増加

- ✓ 国税庁調査<sup>※4</sup>では2023年1月現在の国内のワイナリー数は468場で、前年より15場増加しました。1位の山梨県、2位の長野県、3位の北海道のほか、4位の山形県のワイナリー数が増加しています。

※1 国税庁発表の消費数量実績。課税数量とは異なる

※2 財務省関税局調べによる「ぶどう酒（2L未満）」の数量推移

※3 財務省関税局調べによる「スパークリングワイン」の数量推移

※4 国税庁「酒類製造業及び酒類卸売業の概況」

<「ワイン参考資料」詳細はホームページを参照ください>

[https://www.kirinholdings.com/jp/investors/files/pdf/market\\_wine\\_2024.pdf](https://www.kirinholdings.com/jp/investors/files/pdf/market_wine_2024.pdf)

#### （お客様お問い合わせ先）

キリンホールディングス株式会社 メルシャンお客様相談室（フリーダイヤル）0120-676-757

企業情報 Web サイト <https://www.kirinholdings.com/> 商品・サービス情報 Web サイト <https://www.kirin.co.jp/>